

疫学情報まとめ

	8例目	9例目	10例目	11例目
農場情報				
農場所在都道府県	香川県	鹿児島県	広島県	千葉県
農場所在市町村	三豊市	南さつま市	北広島町	富里市
発生日(疑似患畜判定日)	R6/2/6	R6/2/11	R6/3/12	R6/4/29
用途	採卵用育成鶏	肉用種鶏	採卵鶏	採卵鶏
飼養羽数	約7万羽	約6千羽	約8万羽	約5.7万羽
飼養形態	ケージ飼いく発生>、平飼い	平飼い	ケージ飼いく	ケージ飼いく発生>、平飼い
家さん舎数	セミウインドウレス2棟<発生> 平飼い開放3棟 (うち2棟空舎)	開放鶏舎2棟	高床式開放鶏舎7棟<発生> 低床式セミウインドウレス鶏舎1棟	低床式開放舎3棟 高床式開放舎2棟<発生> 平飼い開放舎2棟
家さん舎・ケージ構造 (発生鶏舎)	屋根裏有 屋根に煙突状通気口あり 鶏舎側面に排気ファン 直立4段ケージ8レーン、通路5本	モニター有(前室上部のみ) 鶏舎側面に排気ファン	モニター無、屋根裏無 自然換気	モニター有、屋根裏無 天井に複数のファン
発生鶏舎以外での 処死前検査陽性	×	×	×	×
うち発生家さん舎(通報時日齢)	約30,500羽(66日齢)	約3千羽(245日齢)	14,411羽(357日齢)	16,922羽(442日齢)
通報時の死亡状況	発生鶏舎全体に散在	発生鶏舎全体に散在	発生鶏舎中央部分でまとまって死亡	発生鶏舎中央付近の4~5ケージで まとまって10羽程度死亡
発生日までの死亡羽数の推移(発生鶏舎)	7⇒146⇒182⇒594⇒514⇒約1,000	(0~1)⇒0⇒0⇒0⇒7	2⇒1⇒3⇒3⇒3⇒20	0~3⇒0~3⇒0~3⇒10
当該事例検出の契機 (通報/検査)	通報	通報	通報	通報(管理獣医師による検査陽性の 通報)
当該事例から3km以内の発生事例(発生日、距離) (当該事例発生日までの事例)	無	無	無	無
周辺農場検査(発生状況確認検査・清浄性確認検査) 、疫学関連家さん飼養農場解除検査、例外協議 検査等の採材日(当該事例発生日までの検査)	-	-	-	-
当該事例病歴前21日以内の簡易検査等実施日(全鶏 舎(全)か発生鶏舎のみ(単)かの別)	-	-	-	R6/4/28、発生鶏舎での管理獣 医師による簡易検査陽性の結果を受 けて通報
当該事例通報時の簡易検査結果	死鶏10/11、生鶏0/2	死鶏7/7	死鶏9/11、生鶏0/2	死鶏11/11、生鶏0/2
当該事例通報時のPCR検査結果	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏7/7	死鶏8/8、生鶏2/2	死鶏11/11
強制排気(発生家さん舎)(開放鶏舎の場合、壁に設 置された換気扇からの排気を含む)	有	有 (鶏舎入口天井部に吸気口、11月 以降は換気ファン5基中1基稼働)	無	無
至近のため池等の水場からの距離	約760m	約30m	農場南側に沿って小川が流れる。	北西方向に約100mの場所に谷津 田がある。
周辺状況	・山間部に所在し、周囲は竹林、雑 木林、水田 ・周囲にため池、川 ・農場から約1.2kmのため池にカモ 類	・山間部に所在し、周囲は竹林、雑 木林、水田 ・農場から約1.0kmのため池にカモ 類	・山間部に所在、公道と私道でつな がっており、農場周辺は森林。 ・農場内南側にある休耕田に水が たまり、池状になっていた。農場南 側に沿って、小川が流れていた。 ・農場近隣にはカラス類が多数。	・当該農場は市街地に位置し、農場 周辺は森林であった。農場北西部 は谷津田となっていた。 ・谷津田の北側は水田として活用、 中央部は耕作放棄地、南部は東京 湾の汚泥処理場。 ・農場から850mの水田、470mの 池、3.1kmの池でカモ類。農場周辺 の林と農場敷地内で野鳥。
疫学情報				
直近の導入日・頻度等	直近の導入はR6/1/5	直近の導入はR5/11/6	直近の導入は、R5/11/17 で、年3回の導入	県外2社より導入 直近はR6/3/2
生体の直近の出荷日・頻度等(捕鳥・輸送)	直近の出荷はR6/1/27	直近の出荷はR5/9/20	直近の出荷はR6/1/13	直近の出荷は低床3号からR6/4/15 に県外食鳥処理場へ出荷(捕鳥、 輸送ともに同業者) 85日~91日間隔で産卵出荷
種卵の直近の導入日・頻度等	-	-	-	-
食用卵・種卵の直近の出荷日・頻度等	-	毎日出荷	直近の出荷はR6/3/4~11	毎日出荷
集卵バーコンベア出口のシャッターの有無、ある場合 に手動又は自動、隙間の有無、家さん舎外バーコン ベア上のかバーの有無等	-	-	シャッター無	シャッター無、隙間有、舎外バー コンベアにかバー無
飼料の搬入頻度・直近の立入日	週5回程度搬入 直近は、R6/2/5	4~5日に1回、直近はR6/2/9	毎日	同一の飼料会社から購入 週約5回
敷料の搬入頻度等	- (平飼い鶏舎で使用していたが、発 生鶏舎には使用せず)	木材加工センターから導入。 直近の導入はR5/10/15	-	-
鶏糞・堆肥の直近の搬出日・頻度	直近はR6/1/27 ・生糞を系列農場の車両で搬出	オールアウト時に搬出。 直近の搬出は、R5年9月	3か月に1回の頻度で重機で搬出 し、堆肥舎で堆肥化。	高床式鶏舎についてはオールア ウト時に重機で集糞、低床鶏舎につ いては2週間に1回重機で集糞、平飼 いについては出荷後に床に敷かれ たものを分解し集糞
除糞ベルト出口、ピット等のシャッター、蓋等の有無、 隙間の有無等	鶏舎内の除糞ピットの落とし口には 蓋が設置されているが、隙間あり	-	-	-
死亡鶏出荷、処理の頻度等	毎朝の健康観察時に回収し、プラス チック製の袋に入れて鶏舎内で一 時保管した後、発生農場から約4km 離れた系列農場に隣接する処理施設 に搬出し、発酵堆肥化処理。	毎朝の健康観察時に回収し、紙袋 に入れ、ほぼ毎日、農場主が約 900m離れた系列の関連農場に搬 出	1日2回(午前、午後)の見回りで回 収し、鶏糞とともに堆肥化。	毎日の見回りの際に回収し、死亡 鶏処理機でコンポスト化。
作業従事者	6名 (管理担当は、最寄りの疫学関連農 場の飼養管理も担当)	3名 ・農場主は洗濯室での業務打ち合 わせと死亡鶏の運搬 ・鶏舎内へは通常入らない	15名 (うち飼養管理担当6名)	14名 (うち飼養管理者4名)
外国人従業員 ○:あり(鶏舎に入る) △:あり(鶏舎に入らない) ×:農場に入らない 海外渡航歴	無	○ (直近1か月の帰省なし)	○ (直近1か月の渡航歴なし)	×
管理獣医師	管理獣医師あり。直近1か月の立ち 入りなし	管理獣医師あり。但し、現在のロッ トの導入以降は、訪問なし。	無	管理獣医師あり 直近の立ち入りはR6/4/28
動物用医薬品 (ワクチンプログラムの有無、販売店の立入り等)	ワクチンプログラム有	ワクチンプログラム有 ワクチン接種は導入前に実施	ワクチンプログラム有 販売店から、月に1~3回搬入 直近はR6/3/4、2/28、2/14	消毒後、衛生管理区域へ搬入(ワ クチンはひなの導入元で実施)
その他衛生管理区域への立入り状況	石油会社(R6/1/23)	無	無	無
その他特記事項	-	-	-	-